



2022年度防災教育チャレンジプラン活動報告会



# 災害伝承 2011 team釜石小の軌跡 「このたねとぼそ」



令和5年2月11日(土)

2011team釜石小ぼうさい

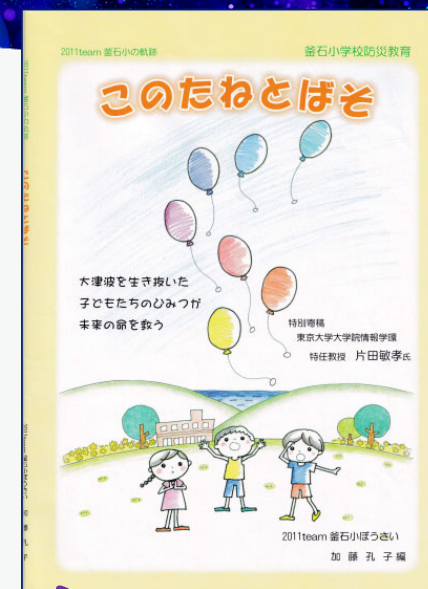
2011 team  
釜石小  
ぼうさい



2011 team釜石小ぼうさい  
チャレンジ

その1 東日本大震災伝承本  
「このたねとばそ」の発刊

その2 大津波を生きぬいた子ども達から  
現在の小学生に  
東日本大震災伝承フィールドワーク  
パネルディスカッション



2011team 釜石小の軌跡

釜石小学校防災教育

# このたねとばそ

大津波を生き抜いた  
子どもたちのひみつが  
未来の命を救う

特別寄稿  
東京大学大学院情報学環  
特任教授 片田敬孝氏



2011team 釜石小ぼうさい  
加藤孔子編

2011 team釜石小ぼうさい

## その1 チャレンジ 東日本大震災伝承本 「このたねとばそ」の発刊

全国へ  
県内外へ

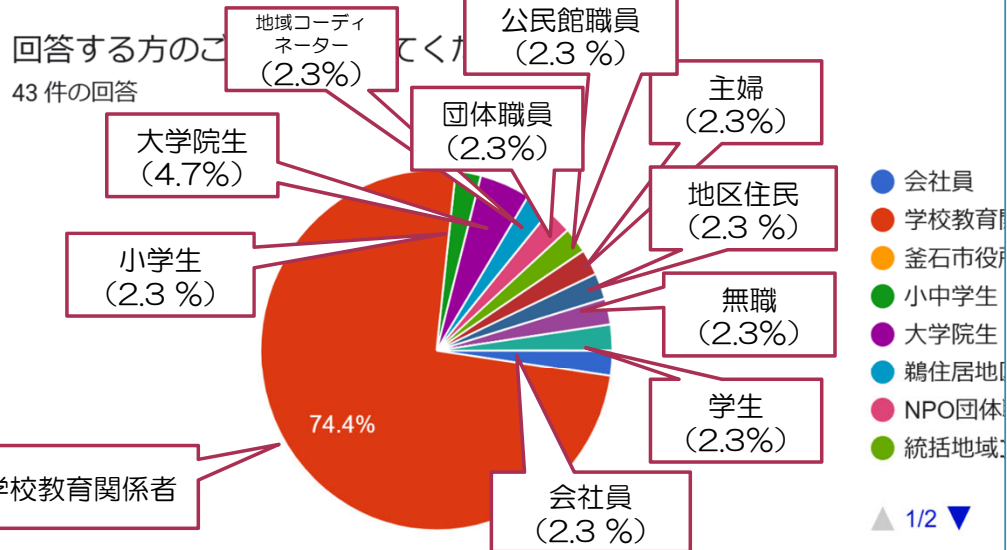
釜石市  
津波伝承館で  
配布

国会図書館  
県立図書館  
大学図書館

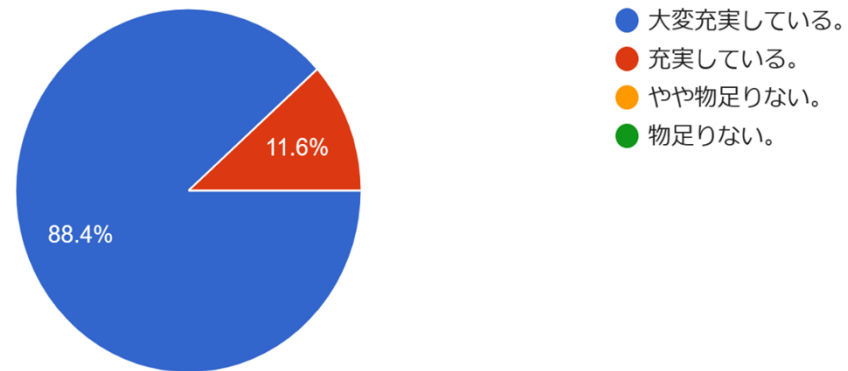
大学の授業に

活動参加者に

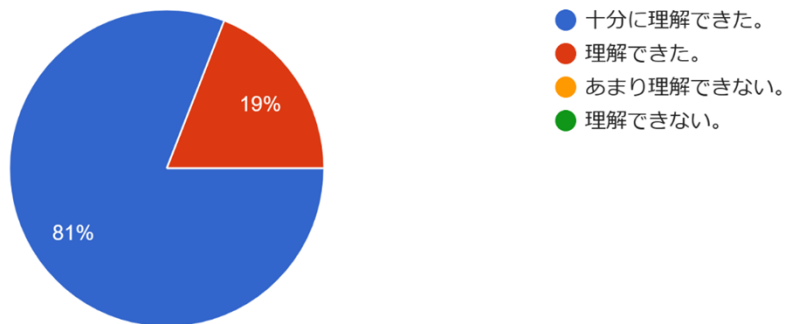
# 2011 team釜石小ぼうさいチャレンジ その1 「このたねとばそ」読者アンケート結果



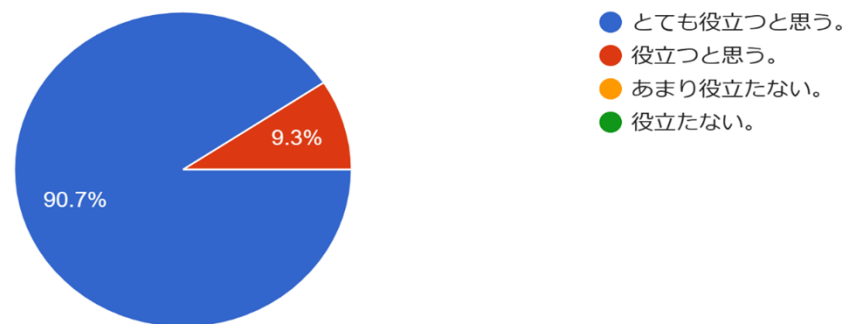
Q1 『このたねとばそ』の内容はどうでしたか。  
43件の回答



Q4 東日本大震災前の釜石小学校の防災教育についてご理解いただけましたか。  
42件の回答

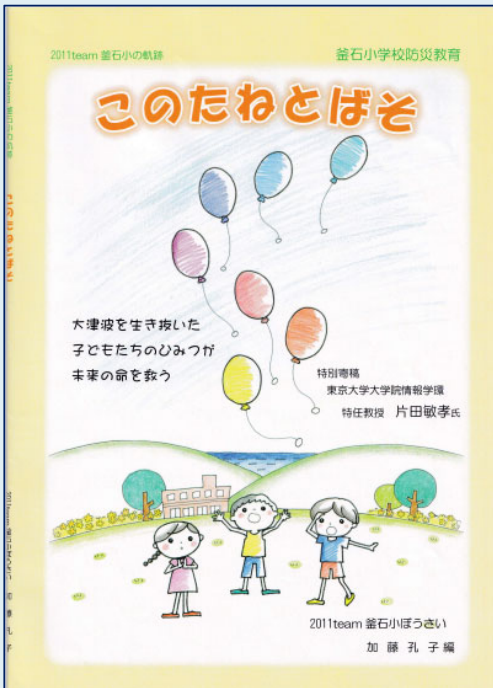


Q8 『このたねとばそ』は東日本大震災を伝承することに役立つと思いますか。  
43件の回答





## 2011 team釜石小ぼうさい チャレンジ その1

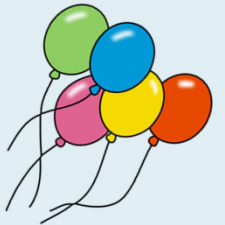


私は、静岡県〇〇市立〇〇小学校に勤務しております。これまで防災教育として様々なことに取り組んできましたが、これでよいのかと、日々悩んでいました。その場限りの学習で終わってしまうのではないかと思ったからです。

そんな時、釜石市の「いのちをつなぐ未来館」を訪れ、本書に出会いました。

防災教育は、脅してはいけない、根本は命を大切にすること、防災教育を進めるあまり、地域を不安視するのではなく、地域に誇りをもてるようにすることなど、とても勉強になりました。

この学びをいかして、今後、何に取り組むのかを考えた時、防災マップづくりに取り組んでみようと思いました。市でもハザードマップは示されていますが、子どもにとっては情報が多すぎるために、自分で防災マップを作ればよいのだと感じました。そのための具体的な手順が本書には示されておりましたので、取り組んでみようと思います。本書に出合えてよかったです。



2011 team釜石小ぼうさい  
チャレンジ その1



現職教員です。

『このたねとぼそ』は、防災教育～復興教育の起承転結・・・結ではない、**未来への導**となる一冊だと実感します。

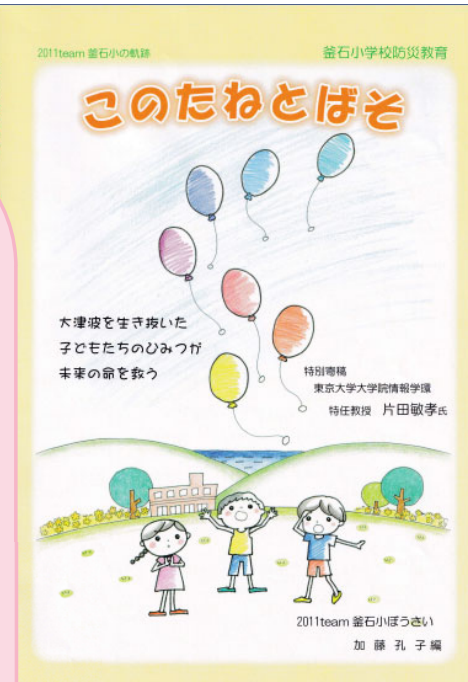
- ・ 片田先生が釜石の防災教育に携わった当初の苦勞から地域の防災力への窓口が学校であり、子どもたちに教える専門である**学校教育が防災教育をする意義**があるという趣旨が、とても印象に残っています。
- ・ 「くるわけもない津波」に対して、**本気で取り組んだ釜石小学校、本気を**気持ちだけでなく児童にインパクトある授業として記憶に残し、**実践につなげた教員、そして防災教育がたくさんの命を救い、郷土の可能性を見出した当時の児童たちが大人になった姿。**
- ・ 釜石小学校からの学びが形となった**この一冊をより多くの人に知ってもらいたいと心から思っています。**



これからつなみがおきたときのたいさくやくんれんをもっとくふうできるとおもう。  
もっといろんなひとによんでもらう。**みんなにおおつなみのことをしてもらおう。** 小学生



2011 team  
釜石小  
ぼうさい





2011 team釜石小ぼうさい  
チャレンジ その1

学校で副読本として活用してほしいです。「大震災釜石の伝承者」としての活動時に活かしたいです。教育の専門家の先生ならではの内容でした。特にこれからの子ども達へ伝承していくためにも、先生方の教育・指導力を活かしてほしいと思います。

地域住民

## 防災教育・災害伝承の重要性

種は、小鳥を介して、動物を介して遠くまで運ばれていきます。あるいは、自ら綿毛を使って遠くまで飛んでいきます。この冊子を通して遠くまで、遠くの人のところまで届き、不幸な出来事が起こらないように！防げるものは防いで欲しい！と願います。そのために、たくさんの人の手に渡りますように！（増刷を希望します。出来るなら、全ての教職員の手に渡りますように。）

地域コーディネーター



2011 team釜石小ぼうさい

# チャレンジ

その2 大津波を生きぬいた子ども達から  
現在の小学生に

東日本大震災伝承フィールドワーク  
パネルディスカッション





2011 team釜石小ぼうさい  
チャレンジ その2



号・車

現在の子どもたちへ

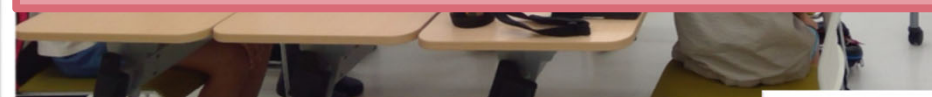
2011 team  
釜石小  
ぼうさい



あの時の子どもたちから



大津波を生き抜くことができたのはどうしてか？



「いきいき生きる」には？



現在の子どもたちへ



## チャレンジ その2 東日本大震災伝承フィールドワークに参加した小学生の声



じっさいにひなんした道を走ったり、見たりして、信号が止まって車がたくさん走っていたら、車にひかれてしまうかもしれないと思いました。そして、今は夏ですが、これが冬なら、凍っていて、転んでしまうかもしれないので、すごいなあと思いました。


実際に走ってみたとき、大変で、その時に友だちをおんぶをしてあげて走ったのがすごいと思いました。いっしゅんの決断力がすごくて、私もみにつけたいし、あの時にこわくても勇気を出していったのがすごいと思いました。弟たちのことも気にかけていてすごいと思いました。




フィールドワークに参加して、改めて、命の大切さを知り、東日本大震災のひがいを受けた釜石はどんな状況だったのかを学びました。

こんなに短時間で、自分と他の人の命を考え、ひなんをしていたのはすごいなと思いました。





愛海さんの話を聞いて、**自分も人の命を助けたい**なと思いました。津波の時にひなんするためには、**ふだんからしんけん**に訓練をするだけでなく、**人から信らい**をしてもらえる、**信らい**する、**家族や友達とコミュニケーション**をとったり、**人の話を聞く**など、**ふだんの生活**もひなんにつながるということがわかったので、よかったです。



震災のイラスト動画で見た愛海さんのことを**実際に会って**、話をしてもらったことが**心に残りました**。いつか愛海さんに会いたいと思っていたので、**会えてうれしかった**です。

人づくり

防災教育



愛海さんおうちやんを説得していたことがすごいと思いました。



東日本大震災から11年、阪神淡路大震災から28年

# 災害の記憶の忘却 未来へ伝承

未来の  
いのち

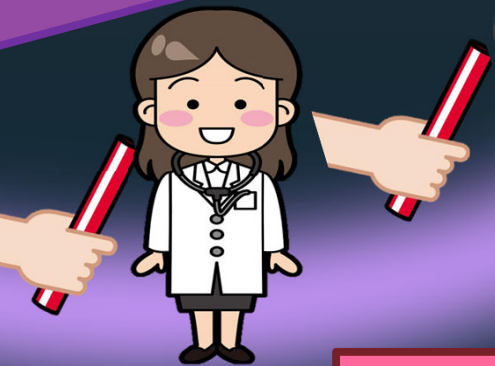
ネット公開いのちをつなぐ未来館HP  
増刷配布

東日本大震災伝承  
フィールドワークプロジェクト

現在の子どもたちへ

防災教育は、  
10年後に地域を支える大人に、  
20年後には地域の防災文化を  
つくる礎に。

大津波を生き抜いた子ども達から



東日本大震災伝承  
フィールドワーク